

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01918

研究課題名(和文) 十代の若者の性とセクシュアリティへの認識と健康リスク行動を可視化する日英比較研究

研究課題名(英文) A study of how young people and professionals in Japan and England communicate about sexuality and sexual risk taking using the Traffic Light Tool

研究代表者

ヤマモト ベバリーアン (Yamamoto, Beverley Anne)

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：10432436

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：Traffic Light Tool (TLT)の原版開発者との間で日本版開発に関する所有権等について必要な手順を経て日本版を開発した。その過程は国内の学術雑誌に公表準備中である。協力が得られた地方の高校でフォーカスグループを実施し、都市でピアカウンセリングに関わる若者グループと意見交換を行って用語を検討した。英国でフォーカスグループを実施して質的分析結果を現地で報告した。フォーカスグループの情報は電子化しthematic analysisのためデータを作成した。学校において、若者との間で性に関わる知識や行動の具体的なコミュニケーションにおいてTLTの有用性が検証された。

研究成果の概要(英文)：This study sought to develop and evaluate a Japanese version of the original, English Traffic Light Tool (TLT), designed to aid communication and build understanding between children, young people and professionals around sexuality, risk and health. We worked with teachers, school nurses (yogo teachers), midwives, students and youth peer counsellors to develop a Japanese translation of the TLT. This was positively evaluated by all stakeholders. We used the English and Japanese TLTs to collect data in focus groups from schools in the UK and Japan. The comparative data reveals similarities in the ways that young people discuss sexuality in the UK and Japan, although overall the latter expressed more conservative opinions around the age appropriateness of different behaviours. Japanese professionals were less confident and expressed more conservative views. We noted differences in the ways that schools approached using the tool.

研究分野：ジェンダー

キーワード：セクシュアリティー セクシュアル・ヘルス ジェンダー 十代の妊娠 性教育 学校保健 日本版開発 国際比較

1. 研究開始当初の背景

日本では「若者の性」は健康への危険面が強く捉えられてきた。1970年代から最近までの若者の性的経験率の上昇や早期化、特に女子の性行動の活発化が否定的に捉えられてきた(日本性教育協会、2007)。学校での性教育は、包括的なセクシュアリティ教育よりも性行為の危険性が大きく捉えられた結果、若者にも否定的にセクシュアリティを捉える傾向が指摘されている(性教育協会、2013; 北村、2011)。一方で、一部の若者、特に女性の危険な性行動による若年妊娠や性感染症の問題も深刻である。

国際的には、セクシュアリティは一生の間に健康と強い関連があることが学術研究により明らかとなり、老後まで性的関心があり、積極的に性的行為に参加、性的な満足感があることがよい健康と長い寿命にポジティブに関係している(WHO, 2006)。性生活の寿命(sexual life expectancy)が注目され、寿命と同程度に長期に性生活の寿命が保たれる社会が「健康的な」と見られている(Smith, 1997; Lindau, 2010)。

日本では、少子化が進むなか、健やか親子21の第2次中間報告(厚生労働省、2007)では、思春期保健の指標や目標設定において、妊娠中絶や性感染症など健康へのリスクに注意が払われたが、健康へのプラスの視点からセクシュアリティを捉えた課題設定はなされてこなかったと言える。しかしながら、健やか親子21の最終評価報告書では、「思春期保健のこれまでの試みが十分な成果をあげられていないことに鑑み、十分な量的拡大と質的転換を図ることが不可欠」との記述がなされた(厚生労働省、2014)。

英国では、1990年代の十代妊娠戦略によって、思春期の性に関する研究と実践の蓄積があり、性やセクシュアリティをめぐるコミュニケーションが進んでいる。また、英国にはSex and Relationship Educationという包括的な性教育の方針があり、生物学的、健康的、社会的、情緒的の各側面から性と人間関係を授業で捉えるべきとされている。内容的にも教育にかける時間をみても、性教育において、英国は日本よりも充実している。若者の健康への正と負の双方から性を捉えている。加えて、英国では近年、児童期や思春期の健康と安全を守る政策では、safeguarding (Royal College of Paediatrics and Child Health, 2014) と early intervention (Allen, 2011) が最も重視視されている概念である。これらの概念枠組みは子どもと若者の性の健康を positively あるいは protectively に捉える貴重な枠組みである。

2. 研究の目的

本研究期間にはTraffic Light Tool (TLT)の日本版を開発する。TLTは、英国やオーストラリアでセクシュアルヘルスや子ども保護の専門家により開発され、よく評価された

ツールで、思春期の性行動への診断と対応を可視化し、若者と親や専門家の間のコミュニケーションを促進させ、理解を深める効果が証明されている。

本研究では、十代の若者の性行動を含む健康リスク行動について、日本と英国でTLTを用いた調査を実施し、結果を比較することによって性やセクシュアリティに関する日本の若者の特徴を明らかとする。

3. 研究の方法

Traffic Light Tool (TLT)の原版開発者との間で日本版開発に関する所有権等について必要な手順を経て日本版を開発する。

日本と英国で、TLTを用いて、十代の若者の性行動に対する診断とふさわしい対応の選択について、フォーカスグループ・ディスカッションの形式で調査を実施する。日本と英国で同じ調査方法を用い、調査対象は十代の若者と専門家(日本では主に養護教諭、教員、思春期保健の専門家)とする。

データを電子化して、質的に分析を進め、日英を比較して日本の特徴を抽出する。

4. 研究成果

1) Traffic Light Tool (TLT)の原版開発者との間で日本版開発に関する所有権等について必要な手順を経て日本版を開発した。その開発過程は国内の学術雑誌に論文にて公表するため準備中である。以下にTLTの日本版開発の過程の概要を記す。

研究者らでTLT原版を翻訳し、H27年9月に日本版ドラフト(第1版)(33項目)を作成した。次に、学校長の研究協力が得られた地方の某高等学校に勤務する性教育の経験が豊富な養護教諭と教員と研究者が会して、第1版の内容と用語を検討した。その結果、2項目について表現の一部を変更した(暫定日本版(第2版))。H28年1月に、同高等学校で、研究同意が文書で得られた高校生を対象に、TLT第2版を用いて、フォーカスグループ(参加者は10数人、4グループ)を実施し、そのファシリテーターは高等学校養護教諭が担当した。

さらに養護教諭・助産師グループとの間で表現について意見交換を重ねて暫定日本版(第2a版)を作成した。

H28年3月に、首都圏在住のリプロダクティブヘルスに関するピアカウンセリングの活動を行っている20歳前後の若者5人の協力を得て、研究者が暫定日本版(第2a版)を用いて、フォーカスグループを実施して、各項目の表現について意見交換を行った。この若者グループからは、日常生活で若者がよく使用している話し言葉を用いた表現が複数提案され、それを反映した暫定日本版(第2b版)を作成した。

TLT 暫定日本版の第 2 a 版と第 2 b 版について、養護教諭のアイデアを取り入れたカード形式のものを作成した。

平成 28 年度に再び地方の某高等学校の協力を得て、第 2 a 版と第 2 b 版の双方をもとに、すべての項目について表現を点検し、その結果から暫定日本版（第 3 版）を作成した。この第 3 版を用いて、同校の協力を得て、教諭らによって、3 クラスで TLT を用いたフォーカスグループを実施した（社会人の場合と、高校生の場合の 2 つの設定で実施）。そのファシリテートは養護教諭と複数の教員が経験した。

平成 29 年度に、これまでの経緯を踏まえて、性教育の経験豊かな養護教諭と助産師および高校教員と研究者が会して意見交換と調整を進めて日本版を確定した。

- 2) 日本の地方の某高等学校で TLT を用いたフォーカスグループを実施した際に、見学した関係者の反応（例えば、TLT の活用によって生徒の発言が促されて活発な議論がなされたことへの驚き）と、TLT を用いて実施した性に関するコミュニケーションについて、従来の学校での性教育と比べてどうであったかについて、対象となった生徒たちとファシリテーターを経験した複数の教員の双方から意見を収集した。生徒たちから、感想文の形式で TLT を用いた性に関する授業について研究者へフィードバックが得られており、その情報の質的分析を進めている。

なお、リプロダクティブヘルスに関するピアカウンセリングの活動を行っている若者グループへのインタビューのデータを利用し、国際的な出版社 Routledge から出版された「Being young in super-aged Japan」に、平成の若者のセクシュアリティに関する章を執筆した。

- 3) H27 年 5 月に、英国で TLT 英語版を用いてフォーカスグループを実施した。中・高生を対象に、7 つのフォーカスグループ（T 校で 2 グループ、G 校で 3 グループ、R 校で 2 府グループ）を実施した。それらデータを予備的に解析した結果から、9 つのテーマを抽出した。講演会という形で調査の成果を同市関係者（学校教育及び若者の健康に関わる職種約 60 名）に還元した。学校において、性に関わる知識や行動の具体的なコミュニケーションを若者との間で行うにあたり、TLT が有用なツールであることが検証できた。結果の質的分析を進め、その一部を国際学会 International Sociology Association にて、口頭と distributed paper で発表した。

- 4) 本研究期間に日本および英国において実

施した TLT を用いたフォーカスグループで得た情報を電子化し、thematic analysis のためのデータを作成した。これまでに実施した予備的な解析では、日本と英国の若者の間では予想していた程の違いは一部でのみ認められた。これまでの解析によって、英国の若者に比べて、日本の若者では性を肯定的に捉える傾向が低いことを示唆する結果が得られており、この点に注目して分析を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

Yamamoto BA, Changing Health, Changing Education: Towards participatory Models of Action. 「変化する健康の概念と教育 当事者主体の参加モデルの構築に向けて」 Manufacturing and Technology. 『生産と技術』2018 pp97-102.

Yamamoto BA, A Comparative Analysis of Understandings of Sexual Behaviour Among Key Stakeholders in UK Secondary Schools. In Proceedings from the 22nd Congress of the World Association for Sexual Health, Singapore. The Journal of Sexual Medicine. 2015: 12;293-381.

Yamamoto BA, Kitano N. Designing a Safeguarding Tool for Japanese Professionals to Identify, Understand and Respond to Adolescent Sexual Behaviours. Environmental Health and Preventive Medicine. 2015: 20;141-145.

〔学会発表〕(計 4 件)

Yamamoto BA. Translating Global Conceptualizations of Health Promotion into Local Settings: A Comparison of Healthy Schools Policy in France, Canada and Japan. UNIRES 6th International Colloquium on Health Education. Paris, October 11, 2016.

Yamamoto BA. Promoting Health, Promoting School Success: An Exploration of Healthy Schools Policy in Four Cultural Settings in the EU and Canada. 3rd International Sociology Association (ISA) Forum. Vienna, Austria. 13 July 2016.

Yamamoto BA. Moving Beyond a Risk-Based Framing: UK Adolescents' Understanding of Sexuality, Healthy Development and Risky Behaviour. 3rd

International Sociology Association
(ISA) Forum. Vienna, Austria. 11 July
2016.

Yamamoto BA. A comparative analysis of
understandings of sexual behaviour
among key stakeholders in UK secondary
schools. World Association of Sexual
Health. Glasgow, UK. 12-16 June 2015.

〔図書〕(計3件)

Yamamoto BA. Youth Sexuality under the
Spotlight in a Super-aged Society with
Too Few Children. In Heinrich, P. and
Gala, C. eds. Being Young and
Resilient in Super-aged Japan,
London: Routledge, 2018, pp51-68.

山本ベバリーアン. 共生学におけるジ
ェンダー公正. 志水宏吉 編『共生学が
創る世界』大阪:大阪大学出版会 2016.
pp.52-63.

山本ベバリーアン. セクシュアリティ
と日本社会. 牟田和恵 編『ジェンダ
ー・スタディズ 女性学・男性学を学ぶ
改訂版』大阪:大阪大学出版会 2015.
pp.102-121.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

ホームページ等 無

6. 研究組織

(1)研究代表者

山本 ベバリーアン (YAMAMOTO, Beverley
Anne)

大阪大学・大学院人間科学研究科・教授
研究者番号: 10432436

(2)研究分担者

北野 尚美 (KITANO, Naomi)

和歌山県立医科大学・医学部・講師

研究者番号: 40316097